

令和元年度「知事と市町長の1対1対談」(志摩市) 概要

- 1 対談市町 志摩市 (竹内 ^{たけうち} 千尋 ^{ちひろ} 志摩市長)
- 2 対談日時 令和元年12月19日(木) 16時00分から17時00分
- 3 対談場所 阿児アリーナ ベイホール
- 4 対談項目1 健康づくりの取組について
対談項目2 災害時の取組について
対談項目3 一般国道167号磯部バイパスの整備について
- 5 対談概要

対談項目1 健康づくりの取組について

(1) 糖尿病対策について

(市長)

志摩市の高齢化率は令和元年10月末で39%、間崎島は82%と非常に高くなっています。令和元年度から第3次健康増進計画が開始となっており、その中でも健康寿命の延伸を目標に掲げ、妊産婦から高齢者までのライフステージにおける健康づくりを推進しています。

市では、志摩医師会と連携しながら糖尿病対策に取り組んでいます。糖尿病対策は予防だけではなく、糖尿病性腎症の重症化予防が重要な課題と言えます。糖尿病で治療中の市民を対象に、情報共有についての同意をもとに、志摩医師会との連携で、糖尿病性腎症リスクが高い市民への指導を、市の保健師および管理栄養士が行うことになりました。今後も継続して糖尿病対策に取り組み、データをもとに市民一人ひとりの生活に沿った指導が実現できるよう取り組んでいきますので、今後もご指導、ご協力をお願いします。

(知事)

毎年実施している県民意識調査において、人生100年時代を迎える中で、県民の皆さんが幸福感を判断する際に最も重視したのは健康であり、県民の皆さんの幸福感を高めるためには、健康づくりの取組が重要となっています。

平成29年に行われた患者調査における三重県の人口10万人あたりの糖尿病の受療率は、全国で2番目に高くなっています。糖尿病は重症化すると1日4時間から5時間かかる人工透析治療を受けることとなり、その医療費は一人あたり年間約500万円が必要になると言われています。また、県内の平成29年の糖尿病性腎症による新規透析導入患者数は256人で、全新規透析導入患者の約半数を占めており、糖尿病の発症予防、重症化予防対策は重要であると考えています。

県では、平成29年度に、三重県糖尿病性腎症重症化予防プログラムを策定するとともに、三重県医師会、三重県糖尿病対策推進会議、三重県保険者協議会、県の

4者で「糖尿病性腎症重症化予防に係る三重県連携協定」を締結しました。これらに基づき平成30年度から、志摩市も含め全ての市町において、糖尿病重症化予防事業を実施していただくとともに、人材の育成を目的として全国に先駆けて、多職種連携の研修を開催しています。

また、令和2年2月19日に市町実施事業報告・検討会を開催する予定ですので、志摩市におかれましては、地域の医師会と連携した優れた取組が、他市町への横展開につながるよう積極的に情報発信をお願いします。県としては、他県の取組について情報共有を行っていきたいと考えています。

(2) クアオルト健康ウォーキング^{注1}について

(市長)

志摩市は、平成30年6月より日本クアオルト協議会に加盟し、令和元年10月1日には志摩市クアオルト推進協議会を設立しました。また、志摩市の「クアオルト健康ウォーキング」を活用したまちづくりビジョンが「太陽生命クアオルト健康ウォーキングアワード2018」で優秀賞に選出されたことに伴い、クアオルト健康ウォーキング認定コース「クアの道」として、「横山天空コース」および「ともやま公園コース」を開設しました。これを記念し、令和元年11月16日に横山天空カフェテラスにおいて記念式典を行いました。

さらに、企業版ふるさと納税により株式会社スポーツマックスから寄附をいただき、三重大学と健康食材の研究を実施し、これらの成果を取り入れた健康食材弁当を、市の管理栄養士がメニューの監修をするなど、運動と食を結び付けた取組を進めています。このような取組を通じて、交流人口の増加および健康寿命の延伸につなげていきたいと考えています。

今後、全国のクアオルト健康ウォーキングに取り組む企業、団体等との連携を図り、質の高い健康保養地をめざしてまいりますので、県内企業のクアオルト健康ウォーキングへの参加や、健康経営優良法人「ホワイト500」に認定されている関西の企業への声掛けの協力をお願いします。

注1 クアオルト健康ウォーキング…心臓リハビリや高血圧の治療に活用されている、自然の野山を活用した運動療法「気候性地形療法(野山の傾斜地+冷気と風の活用)」を基本とした健康ウォーキング

(知事)

若者たちが企業を選ぶときに重要視しているのが、その会社が従業員の働き方や健康の配慮をしているか、福利厚生制度があるかどうか1位2位を占めています。三重県は若者の県内定着が課題ですので、若者に働く場として選んでいただくためにも、健康経営、働き方改革に取り組んでいただくことが地方創生につながると考

えています。企業の皆さんに健康経営に取り組んでもらえるように、認定制度などの取組について検討していきたいと思います。

志摩市で行っているクアオルトの取組は全国でも高く評価されていますので、企業、関係機関・団体等で構成される「三重とこわか県民健康会議」などの場において、事例の情報発信をお願いします。

さらに、県としては、生活習慣病を予防するため、健康無関心層などを対象に、ウェアラブル端末を活用し、日々の行動データを蓄積し、生活習慣の改善を促すとともに、得られたデータを分析してエビデンスを構築する実証事業に取り組んでいく予定です。また、がん検診受診率の向上を図るため、ナッジ理論を活用したがん検診の受診勧奨について県内全市町での導入をめざすなど、健康づくりを推進していきます。

対談項目 2 災害時の取組について

(1) 非常時の食に関する取組

(市長)

防災の取組の一つであるローリングストックとして、志摩市の食材であるヒジキを考えています。ドライパックの技術を使い、開封してそのままはもちろん、調理してもおいしく食べられ、栄養のある非常食を被災者へ届けることを検討しています。具体的には志摩市産のヒジキを使ったドライパックの完成に向けて進めているところです。

志摩産ヒジキのように、地元食材をドライパック化してローリングストックで活用することを普及させていきたいと考えておりますので、県には販路の確保など、お力添えをお願いします。

被災者への食に関する支援として、日本栄養士会災害支援チームがキッチンボックスを搭載した車両で、災害支援の取組を行っています。イタリアでは政府が災害用キッチンカーを保有しており、発災と同時に要請がなくても出発し、機内食のような食事を被災者に届けています。キッチンカーの取組は市単独で行うのではなく県や市町が連携しながら行っていく必要があると考えていますので、県においても検討をお願いします。

(知事)

災害時に栄養バランスを確保するための管理栄養士の派遣については「三重県災害時栄養・食生活支援ガイドライン」に基づき、県への応援要請や国等との調整により被災地に人材を派遣することとしており、日本栄養士会にも災害支援チーム（JDA-DAT）の派遣依頼などの協力を要請することとしています。また、県栄養士会では、日本栄養士会のJDA-DATリーダー育成研修を県内の栄養士の方に受講していただくことで県内での人材育成にも取り組み、食事の質の確保を図

ろうとしているところです。

キッチンカーにつきましては、民間事業者等と協定を締結した岐阜県各務原市の事例もありますので、まずは活用事例等について情報提供を行いたいと思います。

また、受入体制の検討に際し、毎年度行われている志摩市総合防災訓練において、日本栄養士会が所有するキッチンボックスを搭載した車（JDA-DAT号）が避難所の炊出し訓練に参加する場合には、県としても協力したいと考えています。

（2）ドローンの活用

（市長）

三重県においては、全国に先駆け、現在、「空飛ぶクルマ」を活用した課題解決をめざし、間崎島へスーパーから食料や生活用品を運ぶ物流実証実験など、「空の移動革命」に向けた実証実験に取り組まれているところではありますが、志摩市としても地域の課題解決に向けた空からのアプローチに注目しており、今後、発展していくものと確信しています。

このような実証実験の成果を活用しながら、より有効な災害対策を行っていきたいと考えておりますので、今後ご支援、ご協力をお願いします。

（知事）

三重県では、平成30年の2月にドローンを扱う4団体と協定を締結し、大規模災害時の協力体制を構築しました。9月には伊勢湾台風60年防災訓練、10月の三重県総合防災訓練にもドローンによる情報収集活動訓練を行いました。

「空飛ぶクルマ」につきましては、令和2年1月に、ドローンによる物流配送の実証実験を行います。間崎島の住民の方から注文を受け、マックスバリュ鶴方店の商品を隣接する鶴方浜公園から間崎島へドローンにより配送する予定です。志摩市は有力な実証実験の候補地であり、この実証実験の実施にあたっては、関係機関との調整等へのご協力にお礼申し上げるとともに、今後も県との密接な連携をお願いします。

対談項目3 一般国道167号磯部バイパスの整備について

（市長）

一般国道167号磯部バイパスは、第1次緊急輸送道路に位置づけられているとともに、地域の救急医療、地域産業の連携を担う幹線道路としての機能強化を図る道路であり、志摩市にとって命の道といわれています。命にかかわる一刻を争う緊急時の対応のためにも、早期供用をお願いします。

また、近鉄は2025年日本国際博覧会会場となる大阪市の夢洲と伊勢志摩^{ゆめしま}を直通で結ぶ新型特急車両の開発を進め、インバウンドを含めたお客様を万博から伊勢志

摩に送り込もうとしています。伊勢志摩地域の活性化が図られるよう、万博開催に合わせた磯部バイパスの早期完成をお願いします。

(知事)

一般国道 167 号磯部バイパスは、平成 24 年度に国の補助事業として事業着手し整備に取り組んでいます。平成 30 年度までに用地取得が完了し、現在は恵利原側の残土処分地の整備工事を実施しており、今後、トンネル本体の工事を進めていくとともに、並行してトンネル前後の道路工事や河川付替工事を進めていくこととしています。昨年、当時の石井国土交通大臣や財務省へ要望活動を実施し、磯部バイパスの早期完成を望む地域の熱い思いを届けていただいたおかげで、令和元年度はトンネル工事に必要な予算が国から配分され、工事に着手することができました。この場をお借りしてあらためて感謝申し上げます。

引き続き、早期に磯部バイパスが供用できるよう取り組んでいきますので、ご理解とご協力をお願いします。